

令和 元 年 12 月 4 日

厚生労働大臣  
加藤 勝信 殿

公益社団法人 日本小児科学会  
会長 高橋 孝雄

公益社団法人 日本小児科医会  
会長 神川 晃

### 異なるワクチンの接種間隔変更に関する要望書

わが国では、異なるワクチンの接種間隔は、生ワクチン接種後は 27 日以上、不活化ワクチン接種後は 6 日以上空けるように定められている。

注射生ワクチン同士の接種では、理論的に起こり得る干渉現象を回避するために、同時接種でない場合は 27 日間以上の接種間隔が必要と考えられている。一方、不活化ワクチンや経口生ワクチン接種後のすべての種類の異なるワクチン接種、あるいは注射生ワクチン接種後の不活化ワクチンや経口生ワクチン接種については、接種間隔を置かなければならない特段の科学的根拠は見当たらない。

米国や英国をはじめとする海外のほとんどの国においては、注射生ワクチン同士の接種間隔には規制を設けているが、他の接種間隔には規制を設けていない（表）。この問題点については、2012 年 9 月 19 日に日本小児科学会から「異なるワクチンの接種間隔変更に関する要望書」を当時の小宮山洋子厚生労働大臣宛に既に提出済みである。

平成 29 年度予防接種に関する間違い報告がまとめられた。延べ接種回数 46,317,825 回のうち、間違いとして報告のあった件数は 7,787 件（10 万回接種あたり 16.81 件）であった。間違いの態様別では、接種間隔の間違いが最も多く間違い全体の 51.7%を占めたと報告されている。間違い報告の中で、健康被害が生じたものとして 35 件が報告されたが、いずれの報告も発熱や接種部位の発赤・腫脹などであり、重大な健康被害に繋がる間違いはなかった<sup>1)</sup>。

沈降精製百日せきジフテリア破傷風不活化ポリオ混合ワクチン、乾燥ヘモフィルス b 型ワクチン、沈降 13 価肺炎球菌結合型ワクチン、組換え沈降 B 型肝炎ワクチン、経口弱毒生ロタウイルスワクチンなど乳児期に接種すべきワクチンは増加しているが、同時接種を基本としたとしても、現状の接種間隔の規定により、適切な時期に適切な数のワクチン接種が行いにくい状況となっている。

以上より、異なるワクチンの接種間隔について、次のように改訂することを改めて要望する。

- (1) 乾燥弱毒生麻疹風疹混合ワクチン、乾燥弱毒生麻疹ワクチン、乾燥弱毒生

風しんワクチン、乾燥弱毒生水痘ワクチン、乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン、乾燥 BCG ワクチンなど注射生ワクチンを接種した日から、

1) 次の異なる注射生ワクチン接種を行うまでの間隔は 27 日以上置くこと。

2) 次の不活化ワクチンや経口生ワクチン接種を行うまでの間隔は制限しないこと。

(2) 沈降精製百日せきジフテリア破傷風不活化ポリオ混合ワクチン、乾燥ヘモフィルス b 型ワクチン、沈降 13 価肺炎球菌結合型ワクチン、組換え沈降 B 型肝炎ワクチン、乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン、沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド、組換え沈降ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン、インフルエンザ HA ワクチンなど不活化ワクチンを接種した日から、次のすべての種類の異なるワクチン接種を行うまでの間隔は制限しないこと。

(3) 経口弱毒生ロタウイルスワクチンなど経口生ワクチンを接種した日から、次のすべての種類の異なるワクチン接種を行うまでの間隔は制限しないこと。

#### 参考文献

1) 予防接種施策の現状について: 第 32 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会 資料 2-1(2019(令和元)年8月7日)

<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/000535717.pdf>

表

国名	不活化ワクチン-不活化ワクチン	不活化ワクチン-生ワクチン	生ワクチン-不活化ワクチン	生ワクチン-生ワクチン	経口生ワクチン	文献
米国	不活化ワクチンが、異なる不活化ワクチンまたは生ワクチンに対する免疫応答を妨げるエビデンスはない。全ての不活化ワクチンは、同時に、または異なる不活化ワクチン、または生ワクチンの前後で、いつでも接種が可能である。[訳者追記: PCV13とMCV4-D(メナクトラ)は例外として4週間以上あける]			干渉に対する潜在的なリスクを最小限とするために、同日に接種されない注射または経鼻生ワクチンは、4週間以上あけて接種するべきである。	腸チフス(Ty21a)やロタウイルスなどの経口(弱毒生)ワクチンは、必要に応じて、同時に、または異なる注射、または経口生ワクチンの前後にいつでも接種が可能である。	1)
	2種類の不活化ワクチン、または生ワクチンと不活化ワクチンによる異なる全ての組み合わせは、互いの前後でいつでも接種が可能である。[訳者追記: PCV13とMCV4-D(メナクトラ)は例外として4週間以上あける]			同時接種がなされなかった非経口(注射)生ワクチン(MMR、MMRV、水痘、帯状疱疹、黄熱)と弱毒経鼻インフルエンザワクチン(国内未承認)は、少なくとも4週間あけて接種するべきである。	経口(弱毒)生ワクチン(経口ポリオ(OPV)[訳者追記: 2012年、国内中止]、経口チフス、経口ロタウイルス)は、同時に接種されなければ、互いに干渉するとは考えられず、互いの前後でいつでも接種が可能である。  非経口生ワクチン(MMR、MMRV、水痘、帯状疱疹、黄熱)と弱毒経鼻インフルエンザワクチン(国内未承認)は、経口接種された生ワクチン(経口ポリオ(OPV)[訳者追記: 2012、年国内中止]、経口チフス、経口ロタウイルス)に影響を与えるとは考えられていない。経口生ワクチンは非経口生ワクチンまたは弱毒経鼻インフルエンザワクチンの前後でいつでも接種が可能である。	2)
英国	異なる不活化ワクチンの接種は、互いの前後または同時にいつでも接種が可能である。	不活化ワクチンの接種は、生ワクチンの前後、または同時にいつでも接種が可能であり、その逆(生ワクチン→不活化ワクチン)も可能である。		<b>黄熱ワクチンとMMR</b> 両ワクチンの接種は、最低4週間あけるべきである。黄熱とMMRは同日接種すべきではない。 <b>水痘(および帯状疱疹)とMMR</b> 同日接種を除き、両ワクチンの接種は、最低4週間あけるべきである。 <b>現在使用されている全ての生ワクチン(BCG、ロタウイルス、弱毒生インフルエンザワクチン(LAIV)、経口腸チフスワクチン、黄熱、水痘、帯状疱疹、MMR)</b> 上記の組み合わせを除き、これらのワクチンは、互いの前後でいつでも接種が可能である。		3)
カナダ	不活化ワクチンは、他の不活化ワクチン、または生ワクチンと同時、またはその前後に接種が可能である。			2種類の生ワクチンは、同時接種する場合を除き、次の非経口生ワクチン接種まで最低4週間あける必要がある。		4)
ドイツ				生ワクチンは同時接種が可能である。同時接種をしない場合は、2種類の生ワクチン接種は最低4週間あけなければならない。		5)
オーストラリア				<b>状況</b> 4週間以内に弱毒生ウイルス非経口ワクチン、またはBCGを接種した場合。 <b>対応</b> 弱毒生ウイルス非経口ワクチン接種を4週間遅らせる。 <b>根拠</b> 弱毒生ウイルス非経口ワクチンによる免疫応答は、4週間以内に後から接種された生ウイルスワクチンの免疫応答を妨げる可能性があるため。		6)

## 文献

- 1) MMWR Recomm Rep. 2011 Jan 28;60(2):1-64. Erratum in: MMWR Recomm Rep. 2011 Jul 29;60:993. PMID: 21293327
- 2) CDC. Pink book 2015 p12
- 3) UK. Green book chapter 11, [https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment\\_data/file/795467/Greenbook\\_chapter\\_11.pdf](https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/795467/Greenbook_chapter_11.pdf)
- 4) Canadian Immunization Guide, Page 10: Canadian Immunization Guide: Part 1 - Key Immunization Information  
<https://www.canada.ca/en/public-health/services/publications/healthy-living/canadian-immunization-guide-part-1-key-immunization-information/page-10-timing-vaccine-administration.html>
- 5) Recommendations of the Standing Committee on Vaccination (STIKO) at the Robert Koch Institute - 2017/2018, [https://www.rki.de/EN/Content/infections/Vaccination/recommendations/34\\_2017\\_engl.pdf?\\_\\_blob=publicationFile](https://www.rki.de/EN/Content/infections/Vaccination/recommendations/34_2017_engl.pdf?__blob=publicationFile)
- 6) The Australian Immunisation Handbook, <https://immunisationhandbook.health.gov.au/vaccination-procedures/preparing-for-vaccination>